

---

# 助虫

中田 勸

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

助虫

### 【Nコード】

N1921N

### 【作者名】

中田 勘

### 【あらすじ】

盆休みに墓参りに行くとき影を見かけました。

虫たちが私の墓参りを邪魔してきました。

盆休みに墓参りをしたときの事です。

その日は小雨も降らない日でした。

墓は霊園じゃなく山の中にあるしそこは車の通れないような道で、歩いて墓へと向かっていきました。

といっても、せいぜい徒歩10分程度だし簡単な階段もあるので苦ではありませんでした。

その山は木が沢山ありますが階段の横数メートルにわたって切り開かれていきますので当たりは真っ暗ではありませんでした。

あと2分程度で墓のある場所まで着こうとしていたとき私は黒い人型の影を見ました。

しかしその影はすぐ木に隠れてしまいました。

とくに気にならなかつたのでそのまま進んで行き墓のある場所まで進んでいきました。

そこで不自然に思いました。

ここに来るまでアリが階段3段分を埋め尽くしていて、まるで私が墓場に近づくのを拒んでいるかのようでした。

仕方ないので、成るべく踏まないようにして進んで行きましたがまったく踏まないという事は出来ませんでした。

そしてここに来て、墓へと続く道の両横にある木を伝って私の顎の高さから膝の高さぐらいまでクモの巣が張り巡らされていました。

まるで、ここから先は進入禁止、といわんばかりでした。

そこは仕方が無いので巣を破いて進みました。

ここは墓場なので、当然墓は一個ではありません。

なのでそこだけは、横に20メートル。縦に30メートルほど木々が開けていましたので空も確認でき曇っていました。さっきまで晴れていたのに。

さすがに気味が悪くなって、墓場を早々に立ち去ろうとやるべきこ

とを済ませました。

ちよつど終わつた頃に蚊が増えてきましたので後は何もせず帰りました。

帰りは下り坂なのでほんの3分程度で山を出れました。

道中は黒い影と言ひ虫と言ひ、何だつたのだらうと考えていました。すると後ろに気配を感じましたので振り返ると、あの影がいました。さつき見たときと比べて崩れていたので、かろつじて人型だと分かるものでしたがあの影でした。

影は私にとり憑いてきました。

洗脳しようとしたのでしょうか。

私は焦りながらも虫たちはこの危険を回避して欲しかったのだと理解しました。

それなのに私はアリを何十匹も殺してアレほど大きなクモの巣を無常にも壊して、そして危険を回避できなかつた。

それは虫たちには悔いても悔いきれない思いでした。

自分に諦めては駄目だと言ひ聞かせ気を保ちました。

肉体的にはなんとも無いのですが精神的には朽ちる寸前でした。

それでも踏ん張つて山を降りました。

山を出た時には影は消えていました。

その後私は病棟暮らしになりました。

感情がいくつか欠落して、精神病患者となりました。

しかし虫たちがいなければ私の意識は押さえ込められて完全に支配されていたでしょう。

だから悲壮感は無くただ虫たちへの感謝があるのみでした。

(後書き)

前作とは対象的な作品にしました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1921n/>

---

助虫

2010年10月10日22時01分発行